

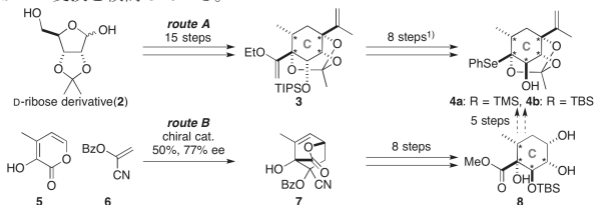
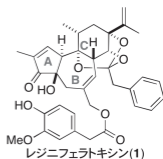
26S-am02S

レジニフェラトキシンの全合成研究

○加藤 駿一郎¹, 占部 大介¹, 井上 将行¹ (¹東大院薬)

【目的】 レジニフェラトキシニン(**1**)は、強力な鎮痛活性を持つダフナンジテルペンである。我々は、ラジカル反応を鍵として**1**の全合成研究を行っており、C環**4a**が優れたラジカル供与体として機能することを見出した¹⁾。今回、C環**4**の効率的な合成経路の確立を目的として研究に着手した。

【方法・結果】 D-リボース誘導体(**2**)から15工程にて**4**の4つの不斉中心を有する**3**を合成した。その後、既知の8工程にて**4a**を得た(route A)。次いで、この合成経路を短縮するべく、新たな合成経路の確立を目指した(route B)。**5, 6**による不斉 Diels-Alder 反応によってC環を構築して**7**を得た後、8工程にて4つの不斉中心を持つ**8**の合成に成功した。現在、**8**から**4b**への変換を検討している。



【参考文献】 1) Murai, K.; Katoh, S.; Urabe, D.; Inoue, M. *Chem. Sci.* **2013**, *4*, 2364.